

(お知らせ)

柏崎刈羽原子力発電所の放射性物質の定期測定における  
微量な放射性物質の検出について（続報）

平成 23 年 5 月 26 日  
東京電力株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

当所では、環境試料分析<sup>\*1</sup>として、発電所近傍の海水や、土壌、松葉などの環境試料の放射能測定を定期的に行っております。これまでに当社福島第一原子力発電所の事故の影響で大気に放出されたごく微量のセシウムやヨウ素などの放射性物質が検出されておりますが、これまでの測定値は、周辺環境へ大きな影響を与えるものではありません。

（平成 23 年 4 月 13 日、5 月 13 日お知らせ済み）

定期測定として発電所の放水口付近（2 地点）において、5 月 23 日に採取した海藻（ホンダワラ類<sup>\*2</sup>）を本日測定したところ、2 地点とも検出限界値をわずかに上回るごく微量のヨウ素 131 が検出されました。

（測定結果については添付資料のとおりです）

運転・作業状況や排気筒モニタ、および海水モニタの測定結果には、いずれも異常は確認されていないことから、当社福島第一原子力発電所の事故の影響により大気に放出された放射性物質の影響によるものと考えております。

今回検出されたヨウ素 131 の測定値（最大 0.23 ベクレル/kg 生<sup>\*3</sup>）は、原子力防災指針に定める摂取制限<sup>\*4</sup>（2000 ベクレル/kg 生）に比べ約 8000 分の 1 と極めて低い値です。

また、今回確認された放射性物質の合計値から受ける放射線量は、仮に 1 年間摂取し続けた場合、年間約  $8 \times 10^{-5}$  ミリシーベルトであり、自然界から 1 年間に受ける放射線量 2.4 ミリシーベルトの約 3 万分の 1 であり、胸のエックス線検診（1 回）で受ける放射線量（0.05 ミリシーベルト）と比べても十分に低い値です。

今回測定に用いた試料については、灰化したうえで放射性セシウムなどの放射性物質の測定を実施するとともに、あわせて、他の環境試料についても、定期的な放射能測定を継続して実施してまいります。

以 上

添付資料 1：柏崎刈羽原子力発電所の放射性物質の定期測定結果について

添付資料 2：柏崎刈羽原子力発電所の定期測定における微量な放射性物質の検出場所について

**\* 1 環境試料分析**

当所では、「原子力発電所周辺地域の安全確保に関する協定書」（通称「安全協定」）に基づき発電所の放射性物質の影響を調査するため、定期的に発電所近傍の海水や土壌、松葉、牛乳などに含まれる放射性物質について調査を実施している。

**\* 2 ホンダワラ類**

海藻の一種で、海洋中の放射性物質を濃縮しやすい生物であるため環境モニタリングの指標生物の1つとなっており、当所では、放射性物質の蓄積状況を調査するため、四半期毎に採取し、測定を実施している。

**\* 3 ベクレル/kg 生**

生の状態の海藻類 1 kg に含まれる放射エネルギー。

**\* 4 原子力防災指針に定める摂取制限**

原子力安全委員会が「原子力施設等の防災対策について」の中で規定している、放射能汚染された食物の摂取を制限する指標。

## 柏崎刈羽原子力発電所の放射性物質の定期測定結果について

採取日：平成23年5月23日

測定日：平成23年5月26日

測定場所		核種名	測定値 (Bq/kg生 <sup>※</sup> )	検出限界値 (Bq/kg生 <sup>※</sup> )	摂取制限値 (Bq/kg生 <sup>※</sup> )
ホンダワラ類	放水口（南）付近	ヨウ素131	0.23	0.21	2,000
	放水口（北）付近	ヨウ素131	0.18	0.16	2,000

※「Bq/kg生」という単位は、生の状態の海藻類1kgに含まれる放射エネルギーを表す。

# 柏崎刈羽原子力発電所の定期測定における微量な放射性物質の検出場所について

